



創刊号

スキコム

by KATSURAO COLLECTIVE



アーティストが葛尾村に短期移住!

Katsurao AIR 活動報告会レポート

福島県双葉郡葛尾村に、アーティストやクリエイターが滞在し、リサーチや制作を行うアーティスト・イン・レジデンスのプログラム「Katsurao AIR」。2024年7月25日(木)~28日(日)の4日間、葛尾村復興交流館あぜりあを中心とした村内各地で、活動報告会が開催されました。

話をつか
島さんは
宝財踊り



野行宝財踊りコレクションの衣装を用いたファッションショーを開催しました。野行地区は、村内の中でも山深い集落のひとつ。原子力災害による避難指示が長期化したことから、この宝財踊りに関しても舞い手が減少するなど、伝統の継承が課題となつています。宝財踊り保存会の会長半澤富二雄さんから、「これまでの宝財踊りもその時々アレンジが加わつていて、唯一の正解はない。伝統を繋いでいけるよう、自由に楽しんでほしい」というお話をうかがった鮫島さんは、

野行宝財踊りコレクション

ファッションショーで蘇る伝統 鮫島弓起雄 SAMEISHIMA Yumikio

滞在アーティスト鮫島弓起雄(さめしまゆみきお)さんは、葛尾村の北東部の集落「野行(のゆき)地区」に伝わる伝統芸能「野行の宝財(ほうさい)踊り」の衣装に焦点を当て、ファッションショー《野行宝財踊りコレクション》を開催しました。野行地区は、村内の中でも山深い集落のひとつ。原子力災害による避難指示が長期化したことから、この宝財踊りに関しても舞い手が減少するなど、伝統の継承が課題となつています。宝財踊り保存会の会長半澤富二雄さんから、「これまでの宝財踊りもその時々アレンジが加わつていて、唯一の正解はない。伝統を繋いでいけるよう、自由に楽しんでほしい」というお話をうかがった鮫島さんは、

かつらおの本棚

『人類堆肥化計画』 東千茅(あずま・ちがや) / 創元社, 2020 選書: Katsurao Collective スタッフ (PR担当) 阪本 健吾

田舎といわれるような地域で農家・百姓として生きていくということは、都会の人間からは禁欲的で清貧な、つましい暮らしというイメージを抱かれがちなのかもしれません。しかしながら、実際に奈良県の中山間地域で農耕をしながら暮らす著者の東千茅さんは、「人間ならざる者たちと共に生きること」に喜びを見出し、むしろ食欲で不埒だからこそ、里山で異種にまみれて暮らすのだといいます。里山での肥沃なエピソードは、読む者の心を掴んで離しません。ほなみちゃん(著者が稲に付けた名前)と甘やかし甘やかされる相互依存ののろけ話、ひだぎゅう(著者が大豆に付けた名前)が誇る里山での強靱な政治力、ニック(著者が鶏に付けた名前)を絞めて食うことの

背徳感。「人間ならざる者たち」に着目することで、だんだん、里山が喜びとエネルギーに満ちた場所に見えてきます……! 多くの動植物や虫たち、微生物が活発に動き、それぞれの喜びを貪ることで豊かな「堆肥」ができるとしたら……私たち人間も、積極的になにかを表現し続けることで豊かな社会をすこしずつ築くことができるのかもしれませんが。本紙のタイトルにも影響を与えてくれた名作です。



Katsurao Collective Information

- 9/21(土) - 29(日)** 東京・目黒
Katsurao Collective ART WEEK at Impact HUB Tokyo
起業家のためのコミュニティスペース「Impact HUB Tokyo」にて、アーティスト滞在事業「Katsurao AIR」で制作された作品がご覧いただけます。初日はトークや上映会を含むオープニングイベントも開催予定です。カフェ「DELI at COMMUNITA」のご利用とともにお楽しみください。
- 11/21(木) - 24(日)** 葛尾村
Katsurao AIR 活動報告会
本紙でもご紹介した永井文仁さん・増田拓史さんを含む5名のアーティストの活動報告を葛尾村内にて実施いたします。23日(土)、24日(日)はワークショップ事業「かつらお企画室」も同時開催する予定です。
- 12/8(日)** 葛尾村
かつらお企画室「葛尾村の稲を使って藁もじりをして正月飾りをつくろう」
毎年恒例! 葛尾村のお父さんたちにしめ縄飾りのつくりかたをレクチャーいただきます。あなただけの正月飾りをつくって、いつもとは一味違うお正月を迎えましょう!
- 12/25(水) - 30(月)** 東京・渋谷
タイトル未定 @渋谷ヒカリエ 8/ CUBE
昨年度8月に引き続き、渋谷ヒカリエ8階にて Katsurao Collective の展示企画を実施します。アーティストによる葛尾村での活動やそこから生まれた作品の数々を、東京にいながらじっくりと鑑賞いただける貴重な機会です。クリスマスから年末にかけてのお出掛け先にぜひ。
- 開催時期未定 葛尾村
Katsurao Collective 2024 活動報告展(仮)
Katsurao AIR で滞在したアーティストが引き続き葛尾村をテーマに制作を続けるリターンアーティストの作品を中心に、Katsurao Collective の2024年度活動報告展を開催予定です。

▶ おわりに

発

行日には、真夏のピークも去っているでしょうか。近年の夏は、毎年のように過去最高を更新し続ける暑さがあたりまえになりました。阿武隈山系の中腹に位置する葛尾村は、平野の都市部に比べれば過ごしやすく、首都圏から比較的近い避暑地として別荘を村内に構える方もいらっしゃったようです。Katsurao Collectiveは葛尾村の「アーティスト移住・定住促進事業」として活動をはじめ、3年目を迎えています。大きく気候変動が進み、私たちの生活を取り巻く環境も目まぐるしく変わってゆくことが見込まれるなかで、葛尾村の冷涼な環境は次第にその価値を高めてゆくのかもかもしれません。

もっとも、冷涼な環境だけで人々が集住するわけではありません。この土地に息づく歴史や自然資源、いまを生きる人々の暮らしや楽しみにこそ、ここに住まうという価値や意義があらためて見出されるのだと思います。葛尾村には、これからも多様なアーティストが短期移住者として滞在し、それぞれの視点で地域が再発見されていきます。今後の Katsurao Collective の活動にご期待ください! それにしても、関西出身の私には、東北地方の冬は堪えます。今年の冬はどうかお手柔らかに……。



あなたの身体は 何からできている？

町田 紗記
MACHIDA Saki
この場所で生きる

絵描きの町田紗記さんは、作品《この場所で生きる》を制作しました。かねてから動物と植物と人の関係性を見つめ、人が自然として存在する世界をテーマに活動を続けている町田さん。モリアオガエルの卵塊や闇夜に光る蛍に心を躍らせた、ニホンカモシカに遭遇したり……といった滞在中の実体験に加えて、村で暮らす方々の語りの中にも、人と自然との切っても切れない関係を実感したようです。

普段は四国・愛媛県松山市を拠点として活動している町田さんにとって、山深い本州の中山間地域の環境は特別なものでした。《この場所



所で生きる》とともに、活動報告会では地域でみつけたさまざまな採集物を展示。かつて海沿いの浪江からトロッコで運ばれてきた



鉄鉱石にも、この地域の人々と自然の関係性の一部が垣間見えます。滞在期間が終わっても手に取っていただける作品を届けてくださった町田さん。《この場所で生きる》は、葛尾村復興交流館あぜりあの図書閲覧コーナーにてご覧いただけます。ぜひ葛尾村で手に取ってください。



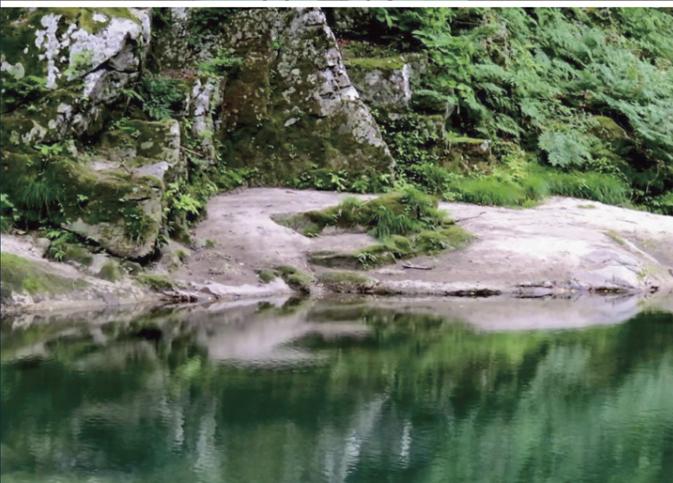
土地に生き続ける音風景

橋本 次郎
HASHIMOTO Jiro

Katsurao Song / 村のうた

兵庫県神戸市を拠点に活動を続けている、レーベル「ZEN」主宰の音楽家／サウンド・アーティスト、橋本次郎さん。葛尾村の文化や歴史、風土を背景とした「象徴的な音」をテーマにフィールドレコーディング（野外録音）を行い、そこで聴こえるサウンドスケープ（音風景）をモチーフとした作品《Katsurao Song / 村のうた》を制作しました。活動報告会の期間中は、展示会場

として使用した葛尾中学校の体育館が、葛尾村の美しい風景を映した映像とともに、葛尾村の音を体感していただける空間になりました。「地域のみなさまの、土地への熱量や愛を感じる語りに、心を動かされた」という橋本さん。「この土地で生まれた作品が、この土地で生き続けるような、そんな作品になることを望んでいます」と、今後の展開にも目が離せません。



サウンドスケープ

ロングチームアーティスト

永井文仁 増田拓史

NAGAI Fumihito / MASUDA Hirofumi

中間発表& トークイベント

今春から11月までの間、葛尾村に通いながら制作を続けるロングチームアーティストの永井文仁さん、増田拓史さん。7月末の報告会では、中間報告として、今年度行うプロジェクトの導入部分を紹介いただきました。

永井文仁さんは《ひかりをすくう》と題して、トラックの荷台にとある仕掛けをしつらえました。これからどんな取り組みがはじまるのでしょうか？

増田拓史さんは、お米づくりなど、食べるものの生産に関わる人々を追いかけたドキュメンタリー映像の中間報告版「トレーラーを、葛尾村復興交流館あぜりあの「蔵」にて上映しました。あぜりあができる前か



らこの地にあつた蔵の中という環境は、この地で生きてきた人々の暮らしを、よりいっそう実感する鑑賞体験をもたらしてくれました。

7月27日(土)にはアーティストトークを実施。お互いのプロジェクトについてや、葛尾村の人々と交流して思うことなどについて存分に語っていただきました。

地元の羊の毛を洗おう！ つむぐうー！つくろうー！ 2024

つむぐ楽しみあふれる空間

7月27日(土)には、Katsurao AIRの活動報告会に合わせて、地域の素材を扱うワークショップ「かつらお企画室」の一環として、葛尾村の特産羊「メルティシープ」の毛をつむいで糸にする催しが開催されました。講師は、全国各地で羊毛のワークショップを手掛ける吉田麻子さん。「メルティシープ」といえば、株式会社牛屋が特別な飼育方法で高い品質を実現したブランド羊です。そのおいしいお肉だけではなく、ふわふわの毛も大事に楽しんでみようではないか！というこのワークショップ

たりとした時間の中で手触りを楽しみながら過ごすことができました。中には、関東地方からいらつやった参加者の方も！生命を大事にし、慈しむことは、「おいしく食べる」だけに限らない。講師の吉田麻子さん、素材に関してご協力いただいている株式会社牛屋のみなさまには、いつも大切な気づきをいただいています。今回もありがとうございました！



活動アーカイブ配信中！

滞在中に収録したアーティストインタビューやトークイベントの様、これまでの活動のアーカイブは、「note」「YouTube」「Spotify」他各種オンラインサービスにて配信中です。本紙に掲載しきれなかった裏話も盛りだくさん！ぜひ覗きにきてください。



は、これまで葛尾村や東京で複数回実施されており、すっかり恒例化してきました。今回も村外からたくさんの方にお集まりいただき、丁寧に汚れを落とす「洗い」から、スピンドルという道具を用いた「紡ぎ」の工程まで、ゆっ

